

1年を振り返って

副理事長 安田 雄哉

2009年は2度目の副理事長を拝命し、因幡ビジョン特別委員会と因幡のグリーン政策委員会を担当させていただきました。

因幡ビジョン特別委員会では、「5年後に因幡地域の全ての幼稚園・保育園の園庭を芝生化すること」を目標に掲げ、鳥取方式の芝生化の普及活動に取り組みました。

因幡のグリーン政策委員会では森をお借りして、しいたけの原木栽培を実施しながら、環境保全の大切さを訴えました。

私が担当した2委員会のいずれの事業も、鳥取県、鳥取市、大学、専門研究機関、NPO法人、という多岐にわたる方々との連携を深める事が出来、また多くの市民の方々にも参加をいただき、実りある成果が得られました。また両委員会の活動は、2010年以降へも繋がるきっちりとした足場固めをしていただけと自負しております。2委員会のメンバー、本当にありがとうございます。

今後上記事業の更なる発展を期待しておりますし、2010年度の理事長予定者として、しっかりと両事業を引き継ぐ事をお誓い申し上げます。ご協力いただいた全ての方にお礼申し上げます。

副理事長 森田 浩二

2009年度、水野理事長のもと、50周年実行特別委員会、新生鳥取砂丘政策委員会の2委員会を担当させて頂きました。50周年記念大会をはじめとする様々な事業があり非常に忙しいと感じましたが、多くの面で新たな気づきがあり大変充実した一年間を過ごすことが出来ました。ご指名いただいた水野理事長に感謝いたします。

また、四役の皆様、担当の2委員会の委員長には幾度となくご迷惑をかけたことと思いますが一年間支えていただいたことを感謝いたします。最後になりましたがメンバー皆様に多大な協力を頂いたことを感謝いたします。一年間本当に有難うございました。

副理事長 小池 誠

会員交流委員会、青少年育成委員会の2委員会の担当副理事長を1年間させて頂いた頂きました。大月委員長、星山委員長の両委員長とも非常に頑張られて大きな成果を収められました。それを後押し出来たかどうかは大いに疑問が残り、反省すべき点が多くありました。

四役会に初めて参加させて頂いたばかり、理事会や委員会とは違う議論の場は新鮮で、貴重な体験をさせて頂いた。大変勉強になりました。副理事長という重責を背負いながらの活動で、迷いや苦しみも多くありましたが、これからのJC活動そして人生に役立つ有意義な時間を過ごさせて頂きました。ご指名いただきまして水野理事長には深く感謝申し上げます。また委員長をはじめとする両委員会メンバーの皆様そして全てのメンバー皆様、大変お世話になりました。1年間本当にありがとうございます。

因幡ビジョン特別委員会 委員長 今井 敏明

50周年記念事業として「因幡総芝生化大作戦」久松公園の鳥取方式による芝生化、芝生を体感 はだしの

王国、を開催いたしました。事業の折に、メンバーの皆様の行動力と団結力により成功することが出来ました。ありがとうございます。また、委員会メンバーの発想力と実行力が支えられ1年間頑張れました。ありがとうございます。そして、山下副委員長には、悩んだ時期や精神的に辛い時期も励ましていただき、挫折しなくなりながらもなんとかここまでたどり着けました。本当にありがとうございます。

鳥取方式の芝生化は、「環光のまち因幡」の実現に一番近いところに位置しています。また、大きな可能性を秘めています。産官学民またJCがつながり、未来を担う子どもたちのためにも、2年目3年目への大きな飛躍を期待していますし、しっかりと来年以降もサポートしていくことを約束しお礼とさせて頂いたいただきます。

一年間本当にありがとうございます。

50周年実行特別委員会 委員長 山根 康徳

半世紀の節目である社団法人 鳥取青年会議所 創立50周年記念大会は昨年(土)に無事開催する事が出来ました。大会が成功したのも皆様が一丸となりご尽力を發揮して頂いたお陰だと思っております。特に最後まで付いて来てくれた委員会メンバーには感謝と御礼を申し上げます。創始の心を胸に刻み、この因幡地域が益々発展し、大会コンセプトにある「人と人の環」を大切に、地域の誇りが「未来の光」となるように今後も青年会議所運動と活動を邁進していきたいと思えます。一年間ありがとうございます。

組織力向上特別委員会 委員長 柴原 史則

本年度は組織に於いて最も基盤となる委員会を任せられ、大変有意義な一年間でありました。昨年からの動き出した会員拡大は常に私のプレッシャーであり、緊張感を維持し続けることの難しさや他メンバーの協力を得ることの難しさ等を学びました。三分間スピーチでは準備、確認等で細かい失敗もあり、開催時間の短い活動準備の差が大きく結果に繋がる事を学びました。そして、研修会員研修会では、新入会員さんへ伝えるべき事をしっかりと精査し、的確にわかり易く伝える表現方法を学びました。こうして振り返ると私が一番勉強をさせて頂いた一年間であったと感じております。メンバーの皆様は、お願いしたことに責任を持って取り組んでいただき大きな援助を頂きました。心より感謝しております。最後の最後まで、会員拡大に走り抜きながら本年度のお礼とさせて頂きました。本当にありがとうございます。

総務委員会 委員長 橋本 泰治

この50周年という節目の年に総務委員長と言う大役を拝命頂き、本当に感謝しております。初の理事という事もありメンバーの皆様には大変ご迷惑をおかけし、委員会のメンバーの方にはいろいろと助けて頂きました。諸会議の設営及び運営、京都会議、50周年記念式典での司会(私事ですが)、他LOM・他組織との連携、全国会員大会、褒賞など。活動自体は地味かもしれませんが、組織全体が円滑に活動できるように役割を果たしてまいりました。次年度は理事ではありませんが、今後、新運動ビジョン「環光のまち因幡推進運動」を5年、10年と進める上でこの因幡に必要とされる「社」鳥取

青年会議所を目指し、今年培った経験を活かせるよう微力ではありますが務めてまいります。支えて頂きました水野理事長、担当して頂きました濱崎専務、総務委員会として一緒に頑張ってくれました委員会メンバーの皆様、そして全メンバーの皆様本当にありがとうございました。

広報委員会 委員長 山田 大介

「2009年度の広報委員会は何かが違うな」こんな印象をLOM内にて与えたいという思いとともに、鳥取JCの活動を発信する新しい手法の企画と実践、対外的広報活動が最重要という認識のもと、LOM内外へむけて活発な広報委員会、を目指し1年間取り組んで参りました。

会報誌やホームページの運営に終始してしまいがちな中ではあっても、大きなアクションを起こすことが出来たと思いますし、広く確実に大きな対外広報活動の一步を踏み出したと思います。そして次年度広報委員会もこのDNAを受け継ぎ、まちづくりと言えはJC、「環光のまち因幡」推進運動はJCと言われる対外広報活動を引き続き行っていたただける事を今強く感じています。

最後になりますが、私たち広報委員会を叱咤激励し自らが先頭に立って広報活動を展開していただきました水野理事長、私の諦めかけそうな気持ちを察し勇気付け後押しいただいた濱崎専務、そして最後まで校正に尽力していただいた広報委員会メンバーの皆様、心より感謝申し上げます。1年間本当に有り難うございました。

青少年育成委員会

委員長 星山 君泰

本年一年を振り返ってあっという間

の一年だったように感じます。初の理事ということもあり、無我夢中でJC活動に取り組んでいました。そしてJCの醍醐味を感じとれた一年でもありました。緊張の中の初委員会や理事会、自分の思いをうまく語ることができずに歯がゆい思いをし、そして事業に至るまでの渉外活動や委員会メンバーとの議論もすべてが学びの場であり充実した日々でした。本年の活動は決してすべてが満足いくものではありませんでしたが、本当に濃い一年を過ごさせていただきました。水野理事長を始めとするすべてのJCメンバーに深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

社会参画推進委員会

委員長 田中 雅幸

本年度、社会参画推進委員会では、因幡市民が地域の魅力を再認識し、愛着を持つことで因幡地域に誇りを醸成していこうという目的のもと、2日間に亘り実施した「鳥取JC地域の誇りにづくりプロジェクト」を無事行うことができました。結果、世界登録に向けて、日本からの推薦枠に残ることになり、本事業がその一助となったと自負しております。

本年度の委員会での想いである「地域に対する誇りの醸成」は次年度の事業系委員会全てに通じるものだと思っております。2009年度の社会参画推進委員会の取組みが何らかの形で残っていくことを望みます。

そして、思い返すと1年間はずっとの間で、すごく短かったように思います。初めて委員長をさせていただきましたが、様々な面において、皆様にはかなりご迷惑をかけたように思います。しかし、委員会メンバーは誰一人として欠けることなく参加して助けて

いただきました。委員会メンバーには本当に感謝しております。そして、引っ張っていただいた福田副理事長、事業を手伝っていただいたメンバーの皆様、ご協力いただきましたた外部協力者の皆様、すべての方に感謝したいと思います。ありがとうございました。

新生鳥取砂丘政策委員会
委員長 田淵 裕章

年当初から当政策について議論を進めてきました。その中で本年度すべきことは、政策の重要機関である乾燥地研究センターの高度な研究・活動内容をしっかりとメンバー間で認識をした上で何をすべきか手探りではありましたが、活動を進めてまいりました。

「鳥取砂丘」因幡の環境の拠点」というブランディングの定着をどう行うべきか？多様な切り口で企画立案をしてきました。しかしながら、大きな問題点に気づきます。新生鳥取砂丘政策の中心である乾燥地研究センターの因幡地域における認知度が極めて低いということ。いくら大きな夢を持って政策を描こうと、ここを無視して初年度を終えてしまえば、今後「絵に書いた餅」にしかたなりえないと考えました。そこで先ずは地域への継続的発信が必要であるという結論に至り、「センター」の発信事業、「鳥取砂丘イリュージョン」で県内外への発信の2つにより認知度を向上させることに目的を絞ることにいたしました。

イリュージョンに閉じ込めてはこれからの実施になるわけですが砂漠博士においては85名の参加者に認識をいただいた事はさて置き、今後の新生鳥取砂丘政策の展望から考えると今回の発信事業を1つのモデル事業と考

「様のご協力を得つつ、(社)鳥取青年会議所が地域のあらゆる世代へ魅力と誇りを継続的に発信していく必要性を強く感じます。今後10年間、私達(社)鳥取青年会議所が発展的且継続的に政策を推進し、今後の鳥取砂丘に環境という新たな光を組み合わせて地域の誇りを醸成しつつ環境と経済が好循環する未来をこども達に残していくことを切に願います。

12月理事会報告

因幡ビジョン

特別委員会

委員 三谷 展史

2009年度最後の理事会において、20議案の審議が行われました。議案数の多さからも、本年度の活発な活動が行われたことが表れてます。そして審議後には、水野理事長より各理事役員へ労いのお言葉を頂戴いたしました。

創立50周年の節目の年に、水野理事長のリーダーシップの下、活動できたことを誇りに感じます。理事役員の皆様、年間お疲れ様でした。

「環光のまち因幡」推進運動

因幡の豊かな自然環境(ENVIRONMENT)と因幡の特徴を活かした環境保全活動(ECOLOGY)を観光資源として活用し、人と人との環を広めながら「環境」と「経済」が好循環するまちを創る運動です。

編集/発行/印刷: (社)鳥取青年会議所 広報委員会 発行日: 2009年12月31日

鳥取市本町3丁目201番地 鳥取産業会館・鳥取商工会議所ビル4階 TEL: 0857-24-1638

